

審査の結果の要旨

氏名 邱 焱

本論文は、日本語学校に焦点を当てて、在日中国人就学生へのサポートに関する特徴を明らかにすることを目的とするものである。

第Ⅰ部の第1章では、本論文の導入として、研究の背景、先行する関連研究の概観、本研究の目的及び論文構成などを述べた。その上で、来日初期段階にある日本語学校の就学生へのサポートに関する研究の不足や、外国人学生にとって重要なサポート源になる日本語学校のサポート機能に関する検討の不十分さなどの問題点を指摘した。

第Ⅱ部において、第2章の研究1では、まず先行研究の理論的枠組みを参考に、2領域×5タイプの「中国人就学生用サポート尺度」を作成して、その後の研究の測定具を整備した。続く第3章の研究2では、研究1の面接で得られたサポート事例数をサポート種別に分類し、サポート源ごとにその数を比較した。これによって、日本語学校が就学生のサポートネットワークにおいて、とりわけ重要な位置を占めていることを明らかにした。さらに、研究3では、質問紙調査によって、現実には就学生が日本語学校で受けるサポートが不足していることを確認した。以上の裏づけにより、これ以降、就学生のサポート源を日本語学校に集中して研究を進めることとしている。

第Ⅲ部の第4章では、研究4aと研究4bの2つの研究を通して、項目分析を踏まえて、「中国人就学生が必要とする日本語学校のサポート尺度」を精緻化した。第5章では、そのサポート尺度を利用して、就学生と一般留学生との相違を検証した。研究5では、サポート源の種類が乏しいという点において、就学生のほうがより深刻であることが示された。また、研究6では、日本語学校のサポートを説明変数、幸福感尺度を従属変数にした重回帰分析をそれぞれの群で行ったところ、サポートと幸福感との関連について、就学生は一般留学生と異なる特徴を持つことが示唆された。第6章の研究7では、異文化や援助要請に関する先行研究から3変数を付け加えて質問紙を構成し調査を行った結果、日本語学校への援助要請に関するいくつかの規定因を見出している。

第Ⅳ部では、第7章の研究8において、就学生や日本語学校スタッフへの面接調査を行い、第2章～第6章で得られた調査結果を示してそれに対する意見を収集するとともに、サポートの改善についての意見、要望を収集し、本研究の妥当性の検討と補充をしている。続く第8章では、論文全体の内容を総括し、研究の意義、限界と今後の課題を述べている。

このように、これまであまり研究の焦点を当てられることのなかった就学生に対して、本論文では一連の調査を通して、日本語学校に求めるサポートと実際のサポートがどのような特徴をもつものかを実証的に明らかにしたもので、教育心理学における貢献とともに、教育実践においても具体的な示唆をもたらす研究といえる。よって、博士（教育学）の学位にふさわしい論文であると評価された。